

2005年9月8日(木)

1985年プラザ合意20周年記念特集

「祝プラザ合意20周年」か「ノーモアプラザ合意」か

予想通り円安ドル安が続いている。

今回は「プラザ」後、20年ということで昔話となった。若い頃は上司の何度も繰り返されるまったく同じ内容の昔話、為替の武勇伝を聞くのが嫌だったが、自分も嫌がられる年齢となってきた。「オレこそが1ドル=2ポンドを売ってポンドを没落させ歴史を塗り替えた。」「ドルロングを100本持っていて、さらに外銀が一拳にオレにドルを売ってきやがったが、我慢して大儲けした。」などと昔散々聞かされた類の話になるかもしれない。昔話は美化されるものだ。それとは別に「プラザ後20年記念」の花火やパレードはないのだろうか。

1. 「総括」(記念花火の打ち上げは?)
2. 「20年間のドル円相場と各種指標」
3. 「プラザ声明と当時のエコノミストの予想」
4. 「プラザ直後の相場と政策」
5. 「プラザ合意当時のディーリングルーム実況」

1. 「総括」(記念花火の打ち上げは?)

9月22日でプラザ合意後20年となる。時が経つのは早い。

米国の貿易赤字を為替の調整で削減する(下記プラザ合意声明参照)という壮大な経済の実験が20年前の1985年9月23日(秋分の日=月曜日)に始まった。

ドル円は240円から79円75銭を経て110円近辺というここ20年間では円高水準で推移しているが、所期の貿易不均衡改善は進むどころか悪化の一途である。米国貿易赤字は1985年からは5倍に膨らみ、日本の黒字も変わらない。さらに日本の黒字は中国へ移転され米国の対アジア赤字は増大している。

国際分業の時代では貿易不均衡を議論するのも問題がある。一国一国がユニバーサルな経済体制をとるのは効率が悪くなり、比較優位の産業に集中する傾向が

強くなる。米国に生産活動が戻り輸出が伸び貿易黒字になることはあるまい。国際的に生活水準や物価水準が似かよれば為替相場の存在もまた障害にすぎなくなる。いずれユーロ圏のように、より広範な単位での統一通貨が出来ることが待ち望まれる。しかしその為にも日本は国際的な経済、物価、規制の水準に合わせなければならない。

プラザ合意以降の乱高下(主にドル下落)の20年間の相場は為替ディーラーにこそ収益機会を増大させたが、全体的には経済に損失を与えたことのほうが多かったのだろう。またプラザ以降は全面円高かつ大英帝国通貨安が特徴であったが、それが最近まき戻しているのを見れば漸く20年を経てプラザの流れに変化ありということだろうか。

2. 「20年間のドル円相場と各種指標」

ドル円	年	GDP	失業率	日貿易収支	日経 NYDJ	日本国債	米国債
240	1985	4.4%	2.6%	13.4 兆円	11000	1546	6.5 10.6
140	1990	5.3%	2.0%	8.5	34000	2633	6.8 8.6
90	1995	1.6%	3.4%	15.3	15000	5100	2.9 6.6
115	2000	- 0.2%	5.5%	11.5	13000	10000	1.6 6.0
110	2005 予	1.8%	4.6%	11	12500	10500	1.3 4.5

	米貿易赤字	日外貨準備	ドル円直物出来高	日経常黒字 / GDP
1985	1200 億ドル	279 億ドル	18.7 億ドル	3.8%
1990	1000	699	101.5	1.2
1995	1000	2040	83.3	1.9
2000	4361	3614	90.2	2.4
2005 予	6000 ?	8477	91.5	4.5

3. 「プラザ声明と当時のエコノミストの予想」

「1985年プラザ合意声明」

フランス、西独、日本、英国及び米国の大蔵大臣及び中央銀行総裁の発表(1985年9月22日)抜粋

「18.大臣及び総裁は為替レートが対外インバランスを調整する上で役割を果たす

べきであることに合意した。このためには、為替レートは基本的経済条件をこれまで以上によりよく反映しなければならない。彼らは合意された政策行動が、ファンダメンタルズを一層改善するよう実施され強化されるべきであり、ファンダメンタルズの現状及び見通しの変化を考慮すると、主要非ドル通貨の対ドルレートのある程度の一層の秩序ある上昇が望ましいと信じている。彼らはそうすることが有用であるときには、これを促進するように密接に協力する用意がある。」

「プラザ合意以前の米国エコノミストの予想」「攻撃は最大の防御的介入」

プラザ合意以前の 80 年代初めに米国エコノミストは次のように予想していた。エコノミストとは国際経済研究所のスティーブン・マリス、バーグステン、ピータードラッカーなどである。(ドルと世界経済危機 東洋経済より)

* 米国の経常赤字は米国の拡大的な財政政策と日欧の緊縮的な政策の組み合わせの結果で不均衡の責任は米国のみにあるのではない。

* ドルが急落して 日欧の内需拡大が実現すれば 160 円くらいにとどまるソフトランディングになるシナリオと 130 円くらいのハードランディングのシナリオがあった。(実際は予想を上回る 79 円までへの下落)

* 米国の債務が増大しドルが下落すれば不利になるのは日本だけだとしている。米国は債務はドルで払う、日本は輸出業者、投資家が損失を被る。日本人の勤勉さをもってすれば再び競争力を強化しまたドルを稼ぐ可能性が多いが 再びハードランディングで日本が不利になる。まさしく予想したとおりの展開になっている。

4. 「プラザ直後の相場と政策」

(1985 年)

直前の「9 月 20 日」東京引け 241.70 ニューヨーク引け 238.55

「9 月 22 日」プラザ合意

「9 月 23 日」秋分の日、休日出勤、日銀介入依頼

「9 月 24 日、東京市場オープン輸入殺到のところへ介入

高値 232.60 安値 228.20 終値 228.80

10月 211 円、**日銀金利高め誘導で円高定着狙う**

11月一時 200 円割れる

(1986 年)

1月 竹下蔵相発言で再び 200 円割れ

北海原油 1 バレル 20 ドルを割る。

2月 ベーカー長官発言で 178 円へ

3月 北海原油 10 ドルを割り 9.7 ドルとなる

4月 日米首脳会談で日本は内需拡大を表明(バブルへ)

ドル円 166 円へ

7月 中国 人民元を 15.8%**切下げ**

豪ドル防衛策発表される、金利引上げ。

ドル円 153 円へ

1987 年 12 月 121 円 へ(3 年間で約 120 円の円高となった)

(1985 年 9 月 24 日の各相場)

マルク円 85.25(ユーロ円換算 166.73)

ポンド円 333.84 スイス円 104.33 豪ドル円 165.70 カナダ円 168.11

コールレート 6.8125%、プライム 7.2%、JGB 6.12%

(円全面高の歴史、しかし最近はドル安でも円の全面高にはならないのが特徴)

5. 「プラザ合意当時のディーリングルーム実況」

1985 年 9 月 22 日当時のプラザ合意当時のディーリングルームの様子を拙著(共著)「我々は外資に負けなかった」ISコム社から抜粋しました。

「プラザを生きて」

(添付ファイルあるいは別コラムにて参照をお願いします。ファイル名 = プラザを生きて)

以上。

内需拡大 - 規制緩和 - 市場開放 - 小政府 - 財政均衡 - 自己責任 - 公明正大

50 超円高 - 100 円高 - 150 - 普通円 - 200 円安 - 250 - 超円安 -

「世界一のデフレと物価高の共存が日本の弱点」「国を選ぶ時代」

FX湘南社是「面白く正しく」

FSIG FX湘南投資グループ 代表 野村雅道 中京大学講師
(事務所 横浜田園、山下公園、伊豆稲取)
